

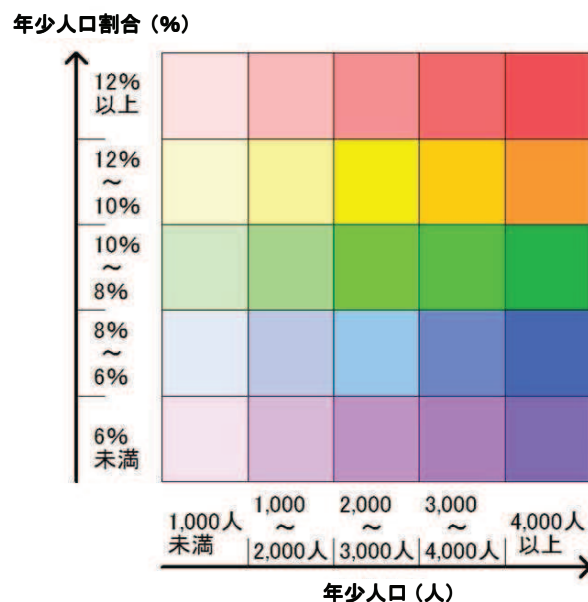
## 2 札幌市における少子化の進捗

本調査・研究では、高齢化と並ぶ社会構造の変化として、年少人口（0歳から15歳まで）に着目し、各まちづくりセンター区域の年少人口の現状及び推計を見るため、縦軸に年少人口割合、横軸に年少人口数を並べ、双方の状況から各地域の状況を把握できるよう整理を行った。

推計数値については、高齢化の推移同様、平成22（2010）年の国勢調査を基準として、その25年後となる平成47（2035）年まで、5年刻みで図示している。

年少人口割合は、20%から5%刻みの5段階（紫→青→緑→黄→赤の順）で変化させ年少人口は、1千人から1千人刻みで濃淡を変化させた。

すなわち、赤に近づくほど、年少人口割合が高くなり色が濃くなるほど、年少人口が多くなることを示す図となっている。

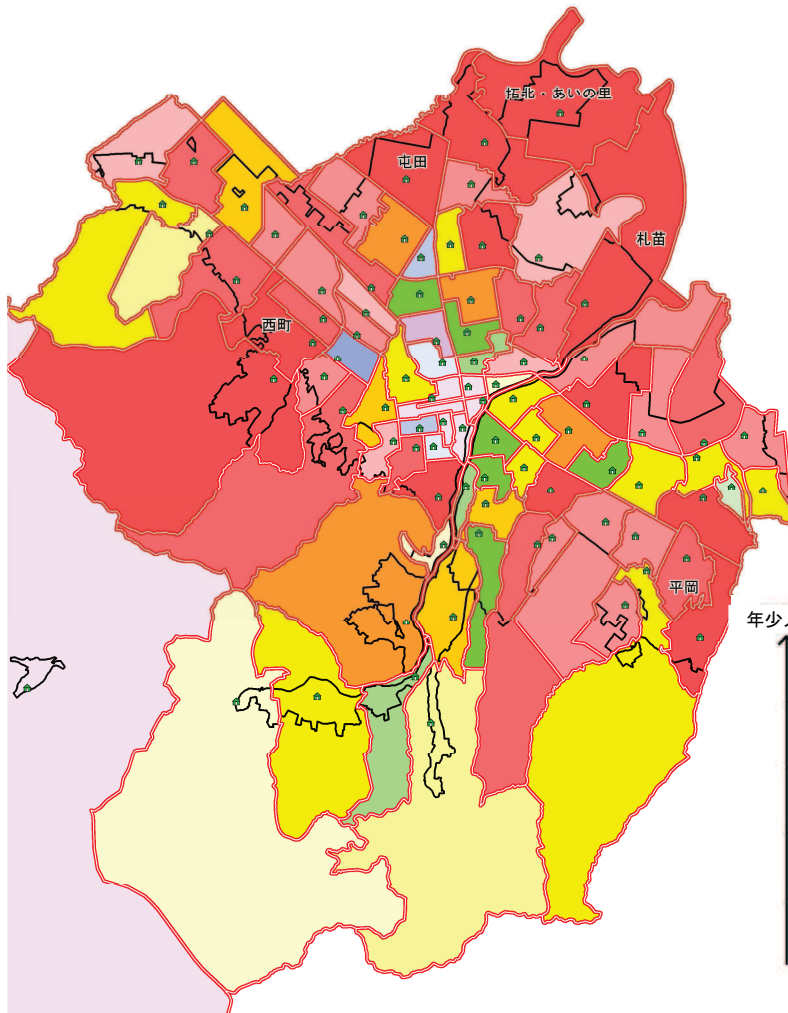


また、高齢化同様、各年度における全市の年少人口及び年少人口割合を、「●（赤点）」で表示し、各年度の5年前の老年人口及び高齢化率を「○（白点）」で表示することとした。このことによって、将来推計数値をもとに5年ごとの札幌市の平均がどのように変位するか図示による把握が可能となっている。

なお、色付けにおける赤線で囲まれた部分については、当該年度に札幌市内のいずれかの区域がプロットされている範囲であり、この分布及びその変位は、札幌市の分布状況を把握する指標として見る事が可能である。

【図 15 まちづくりセンター区域別年少人口の展望】

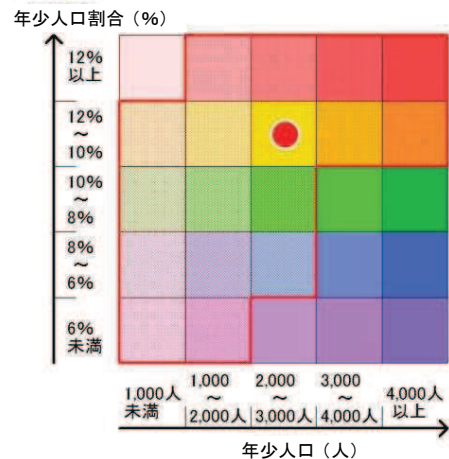
平成 22 (2010) 年度 (国勢調査)



●解説

左図は札幌市の年少人口分布の現状を表している。

郊外部のうち近年、住宅開発の進んだ地域は年少人口が多く、割合も高い。一方で、都心部は比較的年少人口が少なく、利便性を求める単身者が多い傾向にある。



■札幌市平均■

・年少人口 2,577 人

(まちづくりセンター区域単位)

-特に年少人口が多い地域

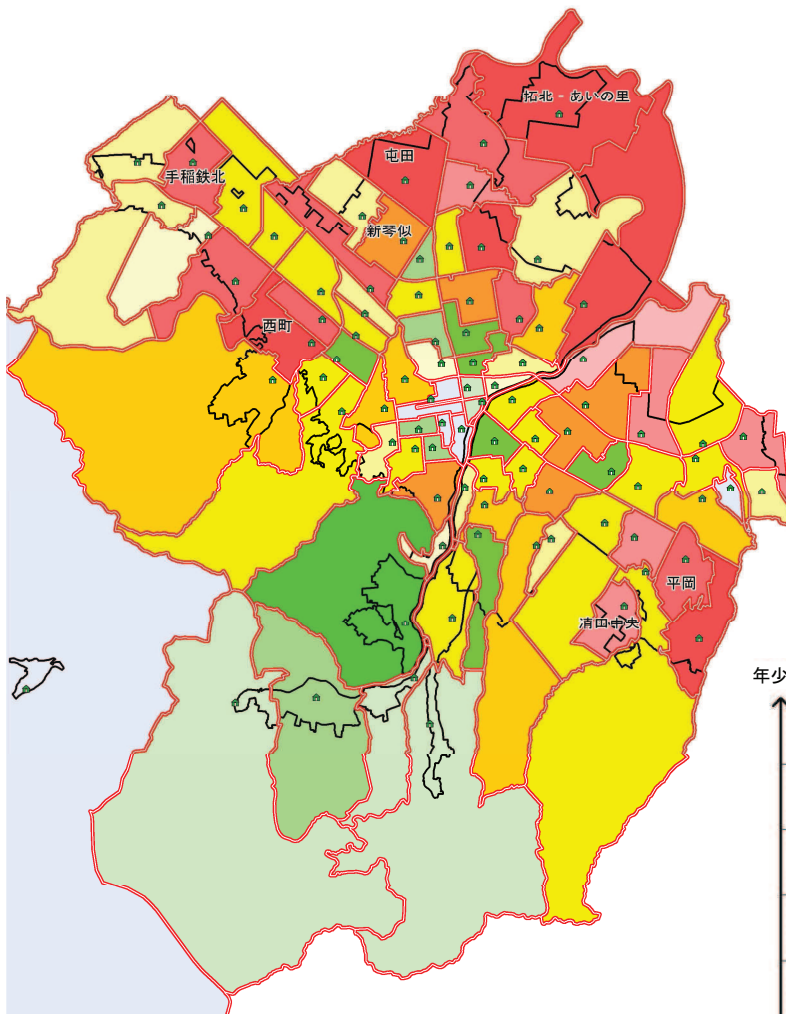
屯田 (6,172 人)、西町 (5,380 人)、札苗 (5,071 人)

・年少人口割合 11.2%

-特に年少人口割合が高い地域

屯田 (17.2%)、拓北あいの里 (15.7%)、清田中央 (15.5%)、札苗 (15.5%)

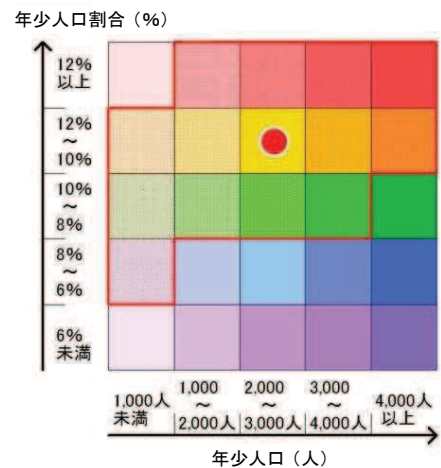
**平成 27 (2015) 年度 (札幌市推計数値)**



■解説

年少人口割合の高かった郊外部においても、少子高齢化が進み、住宅開発時期などにより、年少人口割合の低下に差が生じてくる。

また、南区では大半の地域で年少人口割合が 10%を下回っており、少子高齢化の影響が顕著である。



■札幌市平均■

- ・年少人口 2,494 人 (平成 22 (2010) 年度対比 -83 人)  
(まちづくりセンター区域単位)

-特に年少人口が多い地域

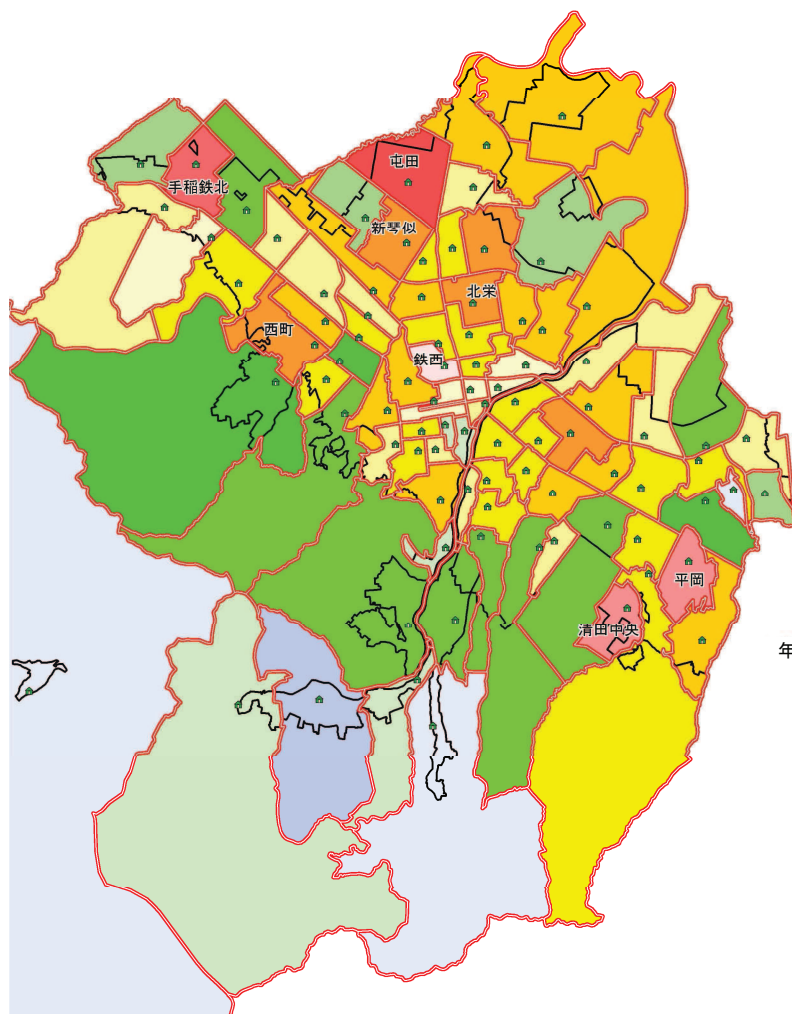
屯田 (5,670 人)、西町 (5,320 人)、新琴似 (4,580 人)、

- ・年少人口割合 10.9% (平成 22 (2010) 年度対比 -0.3 ポイント)

-特に年少人口割合が高い地域

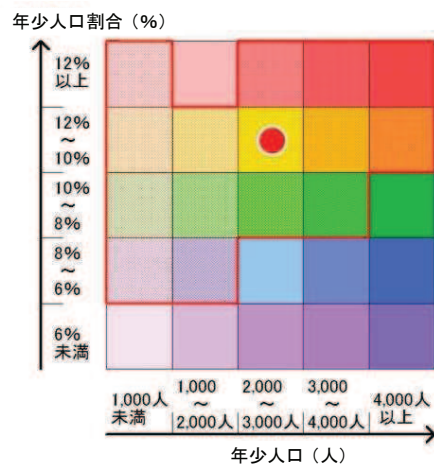
屯田 (15.2%)、清田中央 (15.0%)、手稲鉄北 (13.8%)、  
拓北あいの里 (13.7%)、平岡 (13.3%)

## 平成 32 (2020) 年度 (札幌市推計数値)



### 解説

札幌市全体の人口減少と少子高齢化が進み、年少人口割合が10%を切る地域が南西部を中心に目立つようになるほか、年少人口の減少により全体として色合いが薄くなっていく。



### ■札幌市平均■

・年少人口 2,361人 (平成27(2015)年度対比 -133人)

(まちづくりセンター区域単位)

-特に年少人口が多い地域

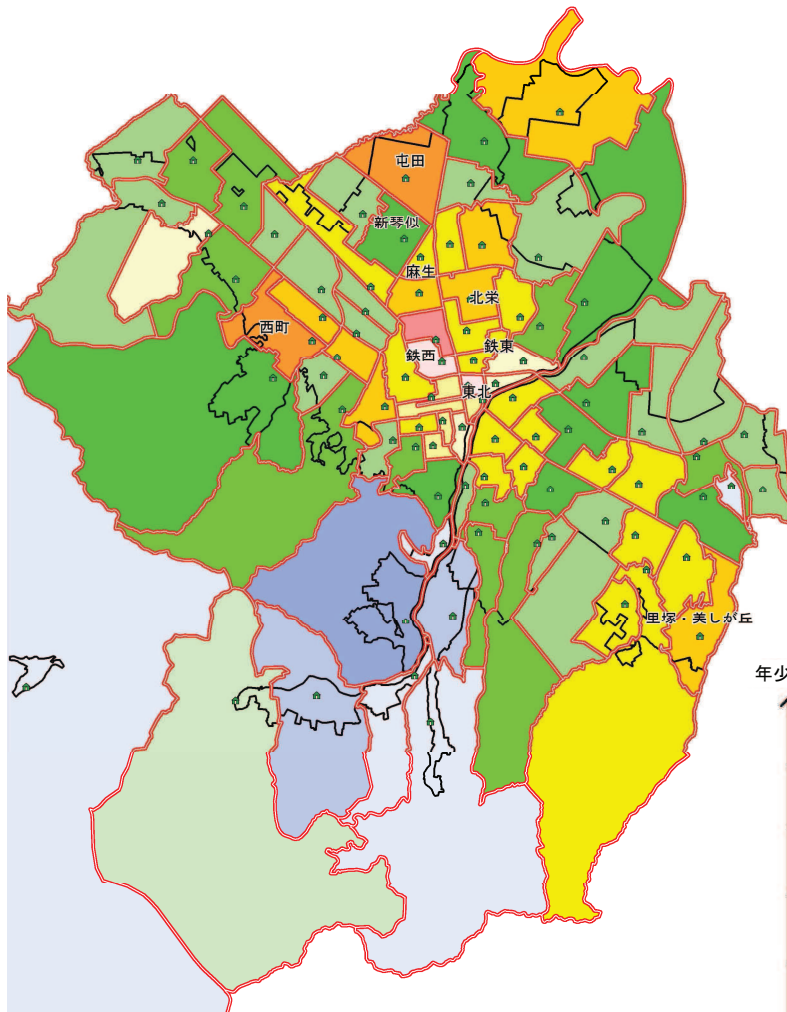
西町 (5,020人)、屯田 (4,910人)、新琴似 (4,300人)、北栄 (4,230人)

・年少人口割合 10.5% (平成27(2015)年度対比 -0.4ポイント)

-特に年少人口割合が高い地域

屯田 (13.0%)、清田中央 (12.8%)、鉄西 (12.3%)、手稲鉄北 (12.1%)、平岡 (12.1%)

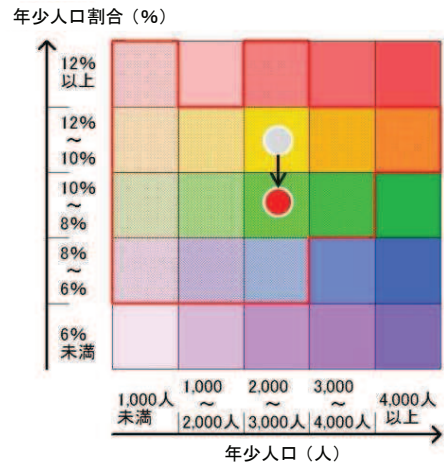
**平成 37 (2025) 年度 (札幌市推計数値)**



☛解説

札幌市平均で年少人口割合が 10%を切る時代に入。

郊外部は年少人口割合の低下など色の変化が激しい一方で、都心部を中心に地下鉄沿線では色の変化が少なく、年少人口割合を維持している地域も都心部や地下鉄沿線部に多い。



■札幌市平均■

- ・年少人口 2,178 人 (平成 32 (2020) 年度対比 -183 人)  
(まちづくりセンター区域単位)

-特に年少人口が多い地域

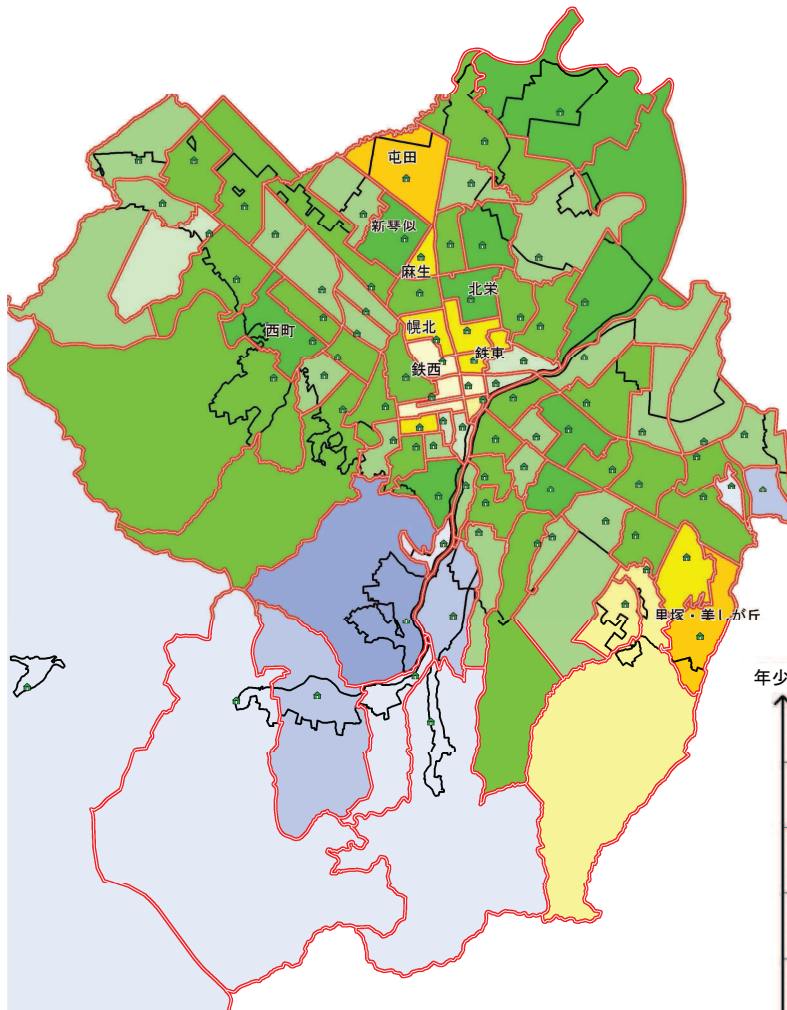
西町 (4,420 人)、屯田 (4,070 人)、北栄 (3,890 人)、新琴似 (3,820 人)

- ・年少人口割合 9.9% (平成 32 (2020) 年度対比 -0.6 ポイント)

-特に年少人口割合が高い地域

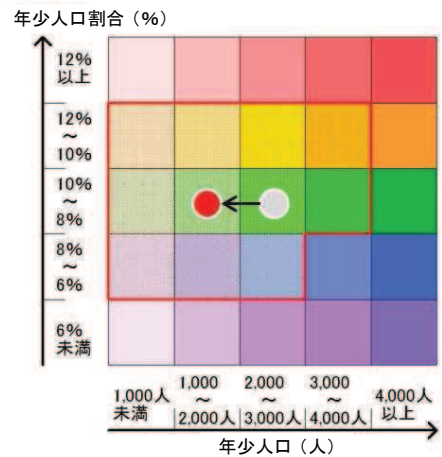
鉄西 (12.8%)、幌北 (12.5%)、東北 (12.4%)、麻生 (12.0%)、鉄東 (11.7%)

**平成 42 (2030) 年度 (札幌市推計数値)**



☛解説

年少人口が平均 2 千人を下回り、拓北あいの里などでも年少人口割合が10%下回るようになるなど、近年住宅開発が進んだ地域においても10%を超える箇所が顕著に少なくなる。



■札幌市平均■

- ・年少人口 1,964 人 (平成 37 (2025) 年度対比 -214 人)  
(まちづくりセンター区域単位)

-特に年少人口が多い地域

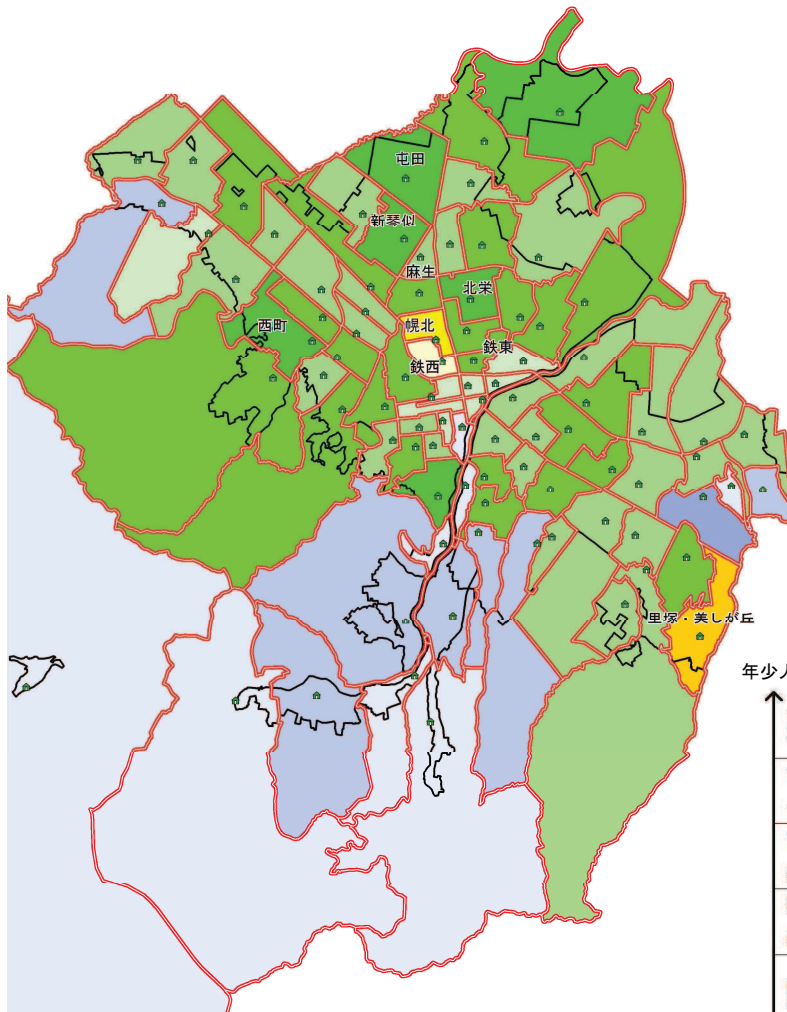
西町 (3,960 人)、屯田 (3,820 人)、新琴似 (3,480 人)、北栄 (3,420 人)

- ・年少人口割合 9.9% (平成 37 (2025) 年度対比 -0.6 ポイント)

-特に年少人口割合が高い地域

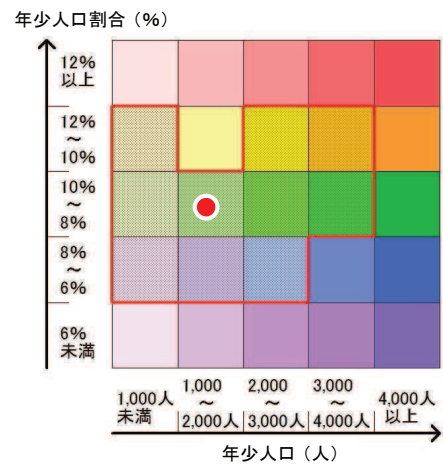
鉄西 (11.5%)、幌北 (11.3%)、東北 (10.7%)、鉄東 (10.6%)、麻生 (10.5%)

**平成 47 (2035) 年度 (札幌市推計数値)**



●解説

老年人口の分布と比較すると地域差が小さく、南区や厚別区など、少子高齢化が顕著な一部地域を除き、総じて同系色（緑や黄）が市内を覆っているといえる。



■札幌市平均■

- ・年少人口 1,793 人 (平成 42 (2030) 年度対比 -171 人)  
(まちづくりセンター区域単位)

-特に年少人口が多い地域

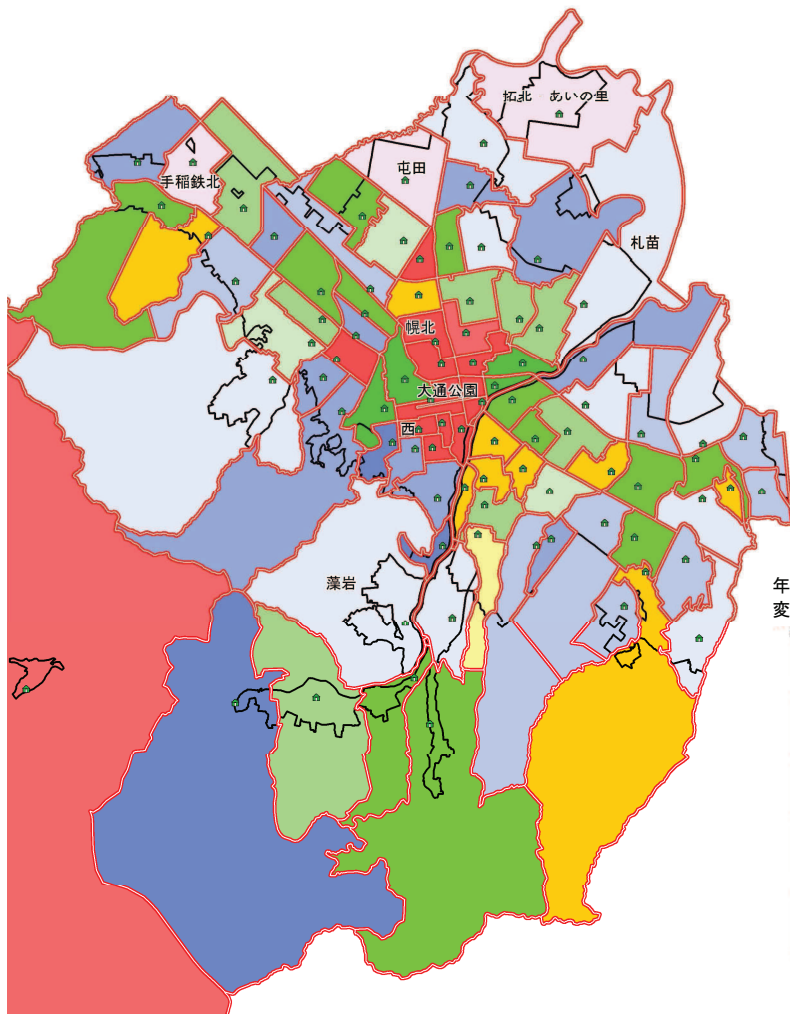
屯田 (3,630 人)、西町 (3,580 人)、山鼻 (3,320 人)、里塚美しが丘 (3,270 人)、新琴似 (3,210 人)

- ・年少人口割合 8.5% (平成 42 (2030) 年度対比 -0.6 ポイント)

-特に年少人口割合が高い地域

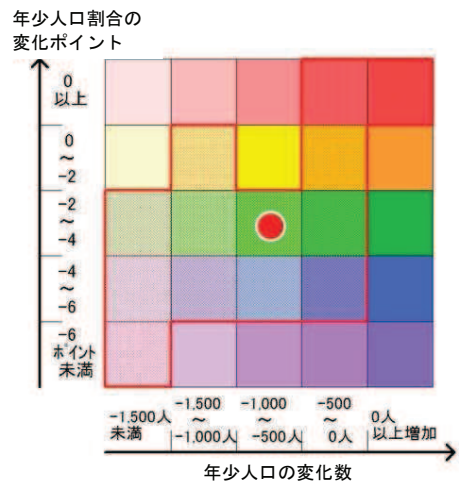
鉄西 (10.5%)、幌北 (10.1%)、里塚・美しが丘 (10.0%)、鉄東 (9.8%)

**平成 22 (2010) 年～平成 47 (2035) 年の年少人口の増加状況**



●解説

左図は、平成 22 (2010) 年 (国勢調査) の年少人口数をベースに、平成 47 (2035) 年までの増加数を集計し、年少人口割合の上昇状況とともに表示したものである。



札幌市における少子化は、年少人口がもともと少ない都心部を除き、全域で減少していくことが分かる。特に、拓北あいの里や屯田、手稲鉄北などの郊外住宅地においては、居住開始時期等がある程度集中した時期に重なっており、年少人口の減少だけでなく、個々の地域における年少人口割合も急速に低下することが把握できる。

■札幌市平均■

年少人口割合の変化：▲2.7ポイント      年少人口の減少：▲785人